

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 1 日現在

機関番号：24501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16618

研究課題名(和文)11-13世紀におけるチベット仏教カダム派の研究 - 寺院を中心として

 研究課題名(英文)A Study on the Bka' gdams pa school from the 11th to the 13th centuries:
Focusing on the monasteries

研究代表者

井内 真帆 (IUCHI, Maho)

神戸市外国語大学・外国学研究所・客員研究員

研究者番号：90514323

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究において2度、ラサ及びラディン寺での現地調査を行うことができた。初年度の調査でポタラ宮殿所蔵の新出文献であるカダム仏教史文献(1484年成立)を入手することができ、本研究では主にこの文献について研究を行った。研究の成果は第14回国際チベット学会(ベルゲン・ノルウェー)で発表し、最終年度には論文 "The Bka' gdams chos 'byung Genre and the Newly Published Ye shes rtse mo's Bka' gdams chos 'byung" を発表することができた。その他、本研究に関わるテーマについて論文発表や学会・研究会での発表を行った。

研究成果の概要(英文)：In this study, I could conduct two fieldwork studies in Lhasa and Rwa sgreng monastery, Tibet Autonomous Region. In the first year, I obtained a newly published Bka' gdams chos 'byung text (History of Bka' gdams pa school), which is probably kept in the Potala Palace, Lhasa. I have been mainly focused on this text. Then, I gave a paper on this text in the 14th conference of the International Association for Tibetan Studies (IATS), Bergen, Norway in 2016. Also, in the last year, in 2018, I published a paper, "The Bka' gdams chos 'byung Genre and the Newly Published Ye shes rtse mo's Bka' gdams chos 'byung" as the result of this study. Additionally, I gave talks and published papers related to this study in the workshop, conference, and journals.

研究分野：チベット学

キーワード：チベット仏教 仏教史 カダム派 チベット ラディン寺 写本 データベース 中世史

1. 研究開始当初の背景

チベット史において、9世紀の古代チベット王国(吐蕃)崩壊から13世紀のサキヤ派 Sa skya pa の台頭までの時代は、チベットの歴史書では「分裂期」*sil bu'i skabs* とされ、また同時代に対する文献の少なさから「チベット史の空白」とされてきた。しかしながら、この時代はカダム派をはじめとするチベット独自の宗派が形成された時代であり、その後のチベット、さらにはチベット仏教の広範な影響を受けるチベット文化圏全体の文化史を考える上で極めて重要な「転換期」である。このような視点から、研究代表者は特にこの時期に成立した宗派であるカダム派の形成及びその広がりについて文献とフィールド調査を用いて研究を行ってきた。

カダム派研究に関しては、2004年にカダム派に関する文献が多く含まれるダライ・ラマ5世(1617-1682)の秘蔵書を主にしたデブン寺(ラサ)所蔵の貴重書目録『デブン寺所蔵古籍目録』(北京:民族出版社)が出版され、2006年以降、『カダム全集』(set. 1-3, 成都:四川民族出版社)や『チベット歴史伝記全集』(set. 1-3, 西寧:青海民族出版社)の出版により多くの新出文献が公開された。これにより国内外の研究者によってこれら新出文献を用いた成果が次々と発表され、研究が活発化している。

しかし一方で、本研究で扱うようなカダム派の成立や展開に関する基本的な研究は、羽田野伯猷(東北大学)のカダム派研究(『チベット・インド学集成』1-4, 法蔵館, 1986-1988に所収される)や後の川越英真(東北大学)の研究(「rNgog blo ldan shes rab と彼をめぐる人々」『印度学仏教学研究』32-2, pp.1010-1006, 1984等の主にカダム派の翻訳師に関する研究)以来ほとんど行われていない。豊富な新出文献が利用可能となった今こそ、カダム派に対する基礎研究を行う必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、11世紀に成立したチベット仏教の一宗派であるカダム派の寺院について、文献とフィールド調査を用いて研究を行い、初期カダム派寺院の全体像を明らかにすることを目的とする。本研究では上記のような昨今続々と出版されている新出文献やその他文献に基づき、主に1056年に建立されたカダム派の総本山ラディン Rwa sgreng 寺と、その他中央チベットに現存するカダム派寺院について取り上げた。本研究によってカダム派の台頭を通して11世紀から13世紀頃のチベット仏教世界の状況を明らかにし、また長期的には現在まで続くチベット仏教またはチベット文化圏形成の一端を明らかにすることを目指している。

3. 研究の方法

本研究は主に、文献研究とフィールド調査

によるものであり、項目A:ラディン寺の建造物と供養物に関するフィールド調査を伴った研究と項目B:カダム派に関する地名と寺院名のデータベース構築の2項目に分けて行った。

各項目に分けて研究方法について述べれば、項目Aについては、先に述べたダライ・ラマ5世の秘蔵書の中から発見された『ラディン寺史』*Rgyal ba'i dben gnas Rwa sgreng gi bshad pa nyi ma'i 'od zer* (1299年成立)に対する研究(下記の[主な発表論文等]の図書にあるこれまで行ってきた研究)に基づき、ラディン寺を実際に訪れて文献上にある建造物や供養物(宝物)の現状の確認を行った。特に、2015年度夏季に調査地のラディン寺において、60年に一度の祭りがあり、その期間に同寺を訪れ、同寺の高僧3名に話を聞くなどしてフィールド調査を行った。

項目Bについては、期間中、初年度と最終年度にチベット自治区ラサ市周辺において2度のフィールド調査を行った。本項目はカダム派に関する地名や寺院のデータベース構築を目的としているが、データベースの基礎となる情報は『カダム明灯史』*Bka' gdams chos 'byung gsal ba'i sgron me* (1494年成立)に基づくものである。このテキストは417葉、全10章から成るもので、カダム派祖師あるいはその後のゲルク派 Dge lugs pa 祖師の多くの伝記が集録されており、その中にはおよそ11世紀から15世紀までの人名や地名、寺院名について膨大な情報を含んでいる。本項目ではこのテキストを基礎として、同テキストに現れる地名について、上記の寺院を実際に訪れて調査を行った。

4. 研究成果

本研究の成果について項目毎に述べれば以下の通り。

項目A(ラディン寺の建造物と供養物に関するフィールド調査を伴った研究)については、まず、2016年度にこれまで行ってきた『ラディン寺史』の研究が著書として出版された(図書)。そして初年度の2015年度夏季に行ったラディン寺での調査において、現在の同寺の供養物の中で『ラディン寺史』の中で確認できるものは、アティシャ Ati sa (982-1054)がチベットに招来したという文殊金剛 'jams dpal rdo rje の像のみであることが明らかになった。また建造物については『ラディン寺史』中に著されるもののほとんどを確認できた。これらの調査の成果はさらに得られた情報や写真を整理し、今後学会発表していきたいと考えている。

また本項目で主な文献として使用した『ラディン寺史』は、チベット語文献の蔵外文献(大蔵経以外の文献)あるいはチベット撰述文献(チベット人による著作)の中でもデンラブ *gdan rabs* (寺院史または座主史)というジャンルに属する。デンラブとは歴代座主や供養物のリストが著された文献のことで

ある。おそらく、本項目で基本文献とする『ラディン寺史』は1299年に著されたものである。デンラプ文献の中でも最も早い時期のものと思われる。デンラプ文献についてはA.I.Vostrikov, *Tibetan Historical Literature* (H. Chandra Gupta (Tr.), Calcutta: R.K.Maitra, 1970)において解説が少しされたのみで、Vostrikovの研究以降、特にこのジャンルを取り扱った研究は国内外で見当たらない。従って、今後の研究において、このチベット文献の一ジャンルであるデンラプ文献について取り上げ、他のデンラプ文献との比較研究なども行いたいと考えている。

項目B(カダム派に関する地名と寺院名のデータベース構築)については、期間中にラサ周りで2度の現地調査を行い、『カダム明灯史』に現れる地名と寺院について調査を行った。具体的には、これまで所在地を確認できていなかった重要なカダム派寺院であるカムカムKaM kaM寺(ラサ市メルドーコンカル県)の位置と現状を確認することができた。また同じく、重要なカダム派寺院のひとつであり、多くのカダム派祖師が学んだことで知られるツェタンRtsed thang寺(山南地区)を訪れて寺院と寺院周辺の調査を行った。そして以前にも調査を行ったカダム派寺院のサンブGsang phu寺(ラサ市チュシュル県)も再び訪れ、現状について調査を行った。

本項目の最終的な目的であるデータベースの構築と公開については、現時点でデータベースはほぼ完成しているが、いくつかの地名と寺院についてさらに調査と確認が必要である。公開については、データベースの公開について協力を仰ぐ予定であったTBRC(Tibetan Buddhist Resource Center, Cambridge)が、2017年にチベット語文献だけでなく、全ての言語の仏教文献を扱うデジタルライブラリーとしてBDRC(Buddhist Digital Resource Center)に名称を変え、また責任者も変わるなど大きな変更があった。研究代表者は2013年2月から2014年8月までTBRCの研究員を務めたが、今後、新たな体制のBDRCと新たに関係を築く必要があり、データの公開も含めて今後の課題となっている。

また本研究を進めていく中で、期間中のチベットにおけるフィールド調査の際の最大の成果は、初年度にラサのセラ寺内にある書店において、2015年に中国内で内部出版され、ポタラ宮殿所蔵と思われる新出文献のカダム仏教史文献(1484年成立)を入手することができたことである。この文献はセラ寺付近にあるセルツクSer gtsug研究室が編纂して出版しているものであり(最終年度に同研究室を訪れて研究室が出版する全出版物の目録を入手することができた)初年度以降、主にこの文献について研究を行った。文献の年代や著者のペンチェン・イエシェツェモPaN chen Ye shes rtse mo(1433-?)、そし

て内容について検討し、現在5つある他のカダム仏教史文献との比較研究も行った。なお、これらの研究の成果は、第14回国際チベット学会(ベルゲン・ノルウェー)で発表し、また最終年度に論文"The Bka' gdams chos 'byung Genre and the Newly Published Ye shes rtse mo's Bka' gdams chos 'byung"(下記の[主な発表論文等]の雑誌論文)として発表した。

ちなみに他にも、本研究の大きなテーマである9世紀から13世紀のチベット史に関連したテーマで論文発表や学会発表をいくつか行った。同時代の文献を多く含むカラホト文献について、2016年度に図書が出版され、その中の新たに比定されたカギユ派に關係する写本について学会発表(学会発表)を行い、論文(雑誌論文)を発表した。グライ・ラマ5世の秘蔵書等にある写本の書体や写本に現れるシェー(shad)などの各種記号について、ハンブルク大学で行われたワークショップで発表(学会発表)を行った。またチベット史全体における同時代の位置付けと仏教を中心としたチベット史の時代区分などについて、東京外国語大学で行われたシンポジウムにて発表をした(学会発表)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3件)

Maho IUCHI, The Bka' gdams chos 'byung Genre and the Newly Published Ye shes rtse mo's Bka' gdams chos 'byung, 岩尾一史・池田巧(編)チベット・ヒマラヤ文明の歴史的展開, 査読有, 2018, 337-356

Maho IUCHI, Early Bka' brgyud Texts from Khara-khoto in the Stein Collection of the British Library, 日本印度学仏教学研究, 査読有, 2017, 65-3, 1271-1276

Tsuguhito Takeuchi, Maho IUCHI, Varieties of Tibetan Texts from Khara-khoto and Etsin-gol: An Introductory Remark, Hamburg Series for Indian and Tibetan Studies, 4, 査読有, 2016, 321-346

[学会発表](計 5件)

Maho IUCHI, Tibetan texts from Khara-khoto, The Seminar of Tibetan Language and Historical Documents, Kobe City University of Foreign Studies, Kobe, 2017.9

井内 真帆, チベット史の転換期としての仏教伝播、チベット文明のレジリエンス、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2016.9

井内 真帆, 大英図書館所蔵カラホト出

土のカギユ派関係文献、第 67 回日本印度学仏教学会、東京大学、2016.9

Maho IUCHI, Bka' gdams chos 'byung genre and newly published Ye shes rtse mo's Bka' gdams history, 14th International of Association for Tibetan Studies, University of Bergen, Norway, 2016.6

Maho IUCHI, Punctuation signs and some particular spellings in the collection of the Gnas bcu lha khang, 'Bras spungs Monastery, Palaeography workshop, University of Hamburg, Germany, 2015.5

〔図書〕(計 2 件)

Maho IUCHI, *An Early Text on the History of Rwa sgreng Monastery: The Rgyal ba'i dben gnas rwa sgreng gi bshad pa nyi ma'i 'od zer of 'Brom shes rab me lce*, Harvard Oriental Series, Vol.82, Harvard University Press, Cambridge MA/ London UK, 2016, 200
Tsuguhito Takeuchi, Maho IUCHI, *Tibetan Texts from Khara-khoto in the Stein Collection of the British Library*, Toyo Bunko, Tokyo, 2016, 561

〔その他〕

ホームページ等

<https://kobe-cufs.academia.edu/MahoIuchi>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井内 真帆 (IUCHI, Maho)

神戸市外国語大学・外国語学研究所・客員
研究員

研究者番号：90514323